



Next

発行所 (社)茨城県建設業協会・建設未来協議会
〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029 (221) 5126 (代)

発行人 大 貫 茂 男

編 集 日本工業経済新聞社水戸支局

「建設フェスタ 2010」開催

地域貢献活動委員会 委員長 山 崎 剛

去る10月24日(日)、本年度17回目となる「建設フェスタ2010」をひたちなか市新光町にて開催いたしました。

建設未来協議会員の皆様には、当日早朝より運営に協力を頂き、ありがとうございました。おかげ様で事故やトラブルもなく、無事に開催出来ましたことをとても嬉しく思っております。重ねて御礼申し上げます。

ここ数年は県土木行政関係のイベントに合わせて開催していましたが、本年度は建設フェスタ単独での開催となりました。会場はひたちなか地区テクノセンターとなりの県有地で、会場としての広さも十分で、国営ひたち海浜公園や大型商業施設に隣接する立地条件の良さを活かし来場者数のUPが期待できました。

当日の好天も手伝い12,000人もの方に来場いただきました。実際に参加した各団体スタッフより「出展ブースへの来場者が例年より多かった」との声が多く聞かれました。厳しい環境の中で開催の準備を進めてきたスタッフにとっては、多くの方に来場いただくことでその労がねぎらわれたことと思います。

又、昨今の経済情勢の影響で予算減の要素が大きく、当初イベント内容の縮減も検討しましたが、新規協賛団体の確保や、広報にかかる費用の一部を県土木部に負担して頂いたり、事前の会場整備を未来協議会直営で行い費用の削減が出来たことで、例年の規模での開催が可能となりました。

当日の様子ですが、例年人気のミニ上棟式やクイズラリーの他、大洗高校のマーチングバンド演

奏には、その正確無比な演奏と動きに多くのお客様が釘付けとなっていました。子供たちを対象にしたもの作り体験には、定員を超えての申し込みがあるほどの盛況ぶりでした。チャリティーオークションでは、骨髄バンクを支援するいばらきの会様より頂いた読売巨人軍の東野選手や越智選手のサイン入りグッズをはじめ、各協賛団体様より多種多様な商品を提供頂いたおかげで、¥66,900 もの寄付金があり、社会福祉事業団体へ慈善事業として寄贈させていただきました。

景気低迷や政権交替に伴う政策転換により、

業界を取り巻く状況は、厳しさを増していますが、子供たちに建設業に対する夢と希望を、そして一般県民の方々にも建設業の本当の姿を正しく理解していただけるように、これからも「建設フェスタ」の開催を継続していけるように頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが建設フェスタ開催にご尽力頂いた茨城県土木部様、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所様をはじめ発注者各位、受注者各団体様に改めて御礼申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



献血・骨髄バンクドナー登録会

建設システム委員会 委員長 柴 直樹

地域貢献活動として「献血・骨髄バンクドナー登録会」を10月24日の建設フェスタ会場にて開催し、大勢の方々にご協力いただきました。骨髄バンクドナー登録会において今年は昨年を上回る20名の方々が登録をして下さり、また、献血も85名の協力を得ることができました。血液が不足していると云われるなか、毎年たくさんの方に協力していただき、この活動が定着してきているのではないかと思いますと同時に、地域社会に貢献できたことをうれしく思います。



県土木部との意見交換会を開催

総務委員会 委員長 木村 晃

県土木部と建設未来協議会役員の意見交換会を 7 月 29 日、開発公社ビル会議室において開催しました。

県土木部から根本俊英参事兼監理課長、宮本正治技監兼検査指導課長をはじめ監理課、検査指導課より多くの職員の皆様にご出席いただきました。

冒頭、大貫会長は、「社会資本整備を通じて地域の皆様の安全安心な生活を守るのが、仕事であり使命と認識している。受発注者は立場は違えど求めるものは同じ。きょうの意見交換で少しでも円滑に進むよう改善されることを期待したい」とあいさつ。



続いて根本参事兼監理課長が「コンクリートから人へのキャッチフレーズがいまだに不本意。普段何気なく利用している公共施設は建設産業が造り上げたもの。国民のイメージ回復に向けた地道な活動が必要。きょうは本音で話し合いたい」と述べた。

意見交換は建設未来協議会会員が、日ごろ抱えている問題や課題、県に対する要望をもとに作成した質問を、県土木部の皆様に回答いただく質疑応答形式で実施。話し合われた内容は、監理課の所管する・一般競争入札参加資格の事後審査について・専任技術者について・格付け基準について・格付け基準の公表時期についての 4 項目と、検査指導課が所管する・ワンデーレスポンスの取組みと効果について・電子入札の開札時間について・工事施工について・創意工夫加点についての 4 項目で行われました。

それぞれの質問に対し県の皆様には大変熱心で前向きなご回答を頂き、また、それぞれの質問に関連する意見や要望が次々にだされ、大変有意義な意見交換会となりました。

高萩・太田地区会中学生体験学習を開催

高萩・太田地区幹事 吉田 長邦

平成 22 年 10 月 12 日に、常陸太田市立世矢中学校において、高萩・太田地区の会員 19 名に参加していただき、中学生向けの建設業体験学習会を行いました。

世矢中学校の第 2 学年の生徒 35 名に、地区会員の指導の下、重機の操作、測量、小型のログハウスの塗装を約 3 時間にわたって体験してもらいました。特に重機の操作体験は、関心が高く、また乗ってみたいとの感想を多くもらいました。

小型のログハウスを、世矢中学校に寄贈し、

世矢中学校の中村和幸校長先生より、御礼の言葉を頂きました。



現場見学会・現場実習を開催

人材育成委員会 委員長 菊地 和幸

本年度の現場見学会は高校 4 校・専門学校 3 校・大学 1 校の参加で実施いたしました。現役で建設を学ぶ生徒であり、将来の建設業界を担う子供たちに、茨城県で行われている大規模プロジェクトの現場を肌で感じてもらいました。

実際の現場に立った彼らは、「本当に今勉強していることが現実の現場で使われていることに驚きました。」と、普段机上だけで勉強している技術や言葉が実際に使われていることに率直に感激していたようです。さらに、見学中に作業をされている職人の方に声をかけられ、仕事に対する話を伺ったり、職の技術を特別に見せていただいたりして、大変実のある見学になったと感じております。

景気後退による雇用不安や先行き不透明な社会事情などたくさんの不安要素が取り巻いているこの子供たちですが、多くの方が協力し合い、知恵を出し合って作り上げる建物を眩しうに見上げる後姿に、少しだけ夢と自信が感じられたように思います。

現場実習は高校 5 校・専門学校 3 校の参加で行われました。実習日数は 3 日間という短いも

のでしたが、実際に企業に出向いて現実の社会を体験してもらいました。実習は各企業の指導者の方が計画していただき、実際の現場作業実習や材料プラントなどの見学。社内で設計 CAD の実習など、多岐にわたった様々な内容を子供たちに体験してもらいました。実習初日は子供たちもなれない経験に緊張した様子でしたが、時間が経つにつれて、指導者との信頼関係ができてきて積極的に取り組む姿勢がみられるようになりました。

3 日間で習得できる技術はほとんどないと思いますが、この期間に肌で感じた現場の緊張した雰囲気は、学校では決して得ることのできないものです。数年後には「社会」という厳しい現実の中に歩き出さなくてはならない子供たち。短い期間の中でありましたが、彼らの将来における「何か」を感じ取ってもらえたのではないかと思います。

最後に、この企画にご協力いただきました土木部検査指導課の皆様および、実習生・見学生を快く受け入れていただきました受入企業の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後のご支援ご協力をお願い申し上げます。



関東地方整備局常陸河川国道事務所との意見交換会を開催

副会長 梅原 基弘

去る 11 月 12 日(金)常陸河川国道事務所にて、発注者と受注者双方が抱える諸問題の改善に向けて取り組むことを目的に、意見交換会を開催しました。常陸河川国道事務所からは、児玉事務所長、副所長、工事発注担当課長等が、建設未来協議会は、大貫会長をはじめ役員の方々が参加いたしました。

冒頭に児玉所長より、「建設業に携わる皆様は、公共事業の役割を支える重要なパートナーであり、行政側だけでは役割を果たすことは出来ず、皆様方あつての建設行政です。そのような中で、毎年、建設未来協議会との意見交換会を実施し、諸問題について改善を進めているところではありますが、まだまだ課題が残っていることも認識しています。こういう形で皆様との距離を短くし、より深いところの話について、忌憚なく議論させていただければと思います。」とのご挨拶を賜りました。

後に常陸河川国道事務所より、間接工事費実績変更、設計変更ガイドライン、設計審査会の運用、ASP（アプリケーションサービスプロバ

イダ）の導入、総価契約単価合意方式について、建設未来協議会側からは平成 22 年度関東建設青年会議建設産業再生推進委員会アンケート調査結果を説明させていただきました。

意見交換では、

1. 入札・契約関係について
 - 1) 設計単価と市場単価の乖離
 - 2) 共通仮設費（積上げ）
 - 3) CPD の加点について
2. 設計図書関係について
 - 1) 概略設計
 - 2) 支障物件・用地取得・関係機関との協議
3. 施工関係について
 - 1) 現場技術員の担当制（施工管理・書類）
 - 2) 出張所のローカルルール
 - 3) 設計図書の不備（条件明示の不徹底等）



上記、諸問題に於ける具体的事例やその実態を発表し、国土交通省としてのシステム改善。または、常陸河川国道事務所として、所内コミュニケーションの向上やシステムを運用する際の意志統一を懇願いたしました。

今後とも発注者と受注者双方が距離を短くし、コミュニケーションの向上を図ることを確認して意見交換会を終了しました。

CCI 茨城中学生建設体験学習 ～大洗一中で開催～

水戸地区会幹事 内藤裕一郎



本年度は、大洗町及び大洗町立第一中学校のご協力をいただき、11月8日・25日の2日間にわたり2年生87名を対象に、ウッディーハウス風木造倉庫の建設体験学習を開催しました。

初日は、各クラスを2班に分け基礎工事と重機操作を体験してもらいました。基礎工事体験では、専用の機械を使った鉄筋切断作業、結束線とハッカーを使った鉄筋の組立作業や約30kgの生コンを一輪車で運搬し、パイプレータで締めコテで表面を均すなど、初心者にはどれも非常に難しい作業を行いました。生徒達にとっては初めての事ばかりなので、みな興味津々で真剣な眼差しで作業に取り組んでいました。重機操作体験では、バックホウとタイヤショベルに実際に乗って、掘削作業やカラーコーンの間をスラローム走行するなどの体験してもらいました。

2日目も前回同様に2班に分け、大工工事（建て方）と測量実習を体験してもらいました。大工工事では板材のかんな掛けや釘打ち、かけやで板材を落とし込むなど非常に難しい作業に生徒達は四苦八苦しながらも非常に楽しそうに作業を続けていました。一方測量実習では、レベルと光波を使い高低差測量と距離測量を体験してもらいました。光波を使い10mピッタリを目指しました。しかし、なかなか合わず何度も計り直し、ターゲットを持つ手も震えて大変そう



でしたが、皆一所懸命頑張っていました。

そして12月6日、無事に引渡しを迎えることができました。引渡式当日は、小谷町長をはじめ多くのご来賓の方々に足を運んでいただき盛大に開催することができました。ウッディーハウスの名称は、生徒達から募集した結果より慎重な選考を重ね『ドリームハウス』に決定いたしました。未永く大切に使用していただけたらと思います。

2日間という非常に短い期間でしたが、ものづくり、の楽しさや難しさを学んでいただけたことと思います。生徒達からは『とてもたのしかった。またやってみたい!』『測量って地道な作業をずっとやるのですか、大変ですね。』『かけやが重くて、とても疲れました…』『1ミリの誤差も許されないなんて、すごいですね!』など、さまざまな感想をいただきました。今回の建設体験学習を通して、建設事業への親近感を深め将来の職業選択の糧となれば、非常にうれしいです。

最後に、この企画にご協力、ご指導、ご鞭撻をいただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

「橋梁の長寿命化」についての勉強会を開催

建設システム委員会 委員長 柴 直樹

今年度建設システム委員会では、8月19日に茨城県建設業協会会議室にて、『橋梁の長寿命化について』の勉強会を開きました。

橋梁の老朽化により、大規模な修繕、または架け替え工事になると莫大な工事費が必要となり、20年後には50年以上を経過した橋梁の数も急激に増えます。そのため、計画的な予防保全により、コストの縮減を図り、橋梁長寿命化修繕計画が策定されています。

その内容、点検業務、またその修繕方法等の勉強会をしてみようと試み、講師には『ふる里の橋を守る会』代表理事の岡本晃氏にお願いしました。

講義内容は、維持管理の心構え、アセットマネジメントと評価方法、実例を踏まえた点検のポイント等でした。講義を聞いて「補修方法は特殊な工法になるのか」「経費がかかりすぎて赤字になってしまうのでは」といった懸念の声も上がりましたが、現在200以上の橋梁の目視検査を行った結果の状況、これからの継続的な管理、補修をするうえで地元企業の協力が必要不可欠であると強く

訴えかけられました。

茨城県土木部では、橋梁長寿命化修繕計画を策定した結果、計画的な予防保全型補修へ切り替えるとして、コスト縮減を図れる見通しであるとしています。

国土交通省では25年度までに橋梁点検や修繕計画を策定した市町村に対して、補助する考えを示しています。一つの橋が通れないことで、遠く迂回を余儀なくされ、その影響により、渋滞が起きてしまいます。ふる里の橋を誰もが安全に安心して通れるように、点検、そして的確な補修方法を学ぶことが必要ではないかと思いました。



地区活動報告

建設未来協議会各地区会において、各発注機関との研修会及び意見交換会を開催いたしました。

開催日	地区名	発注機関名	主な内容
6月1日	県南地区	国土交通省 常総国道事務所	・最近の国交省の施策・取組み ・実務の改善要望 ・新技術の取組み状況 ・工事検査を通しての評価など
7月23日	高萩・ 太田地区	茨城県 高萩工事事務所	・事務所管内の事業概要について ・工事完成図書電子納品について ・平成22年度土木部総合評価方式実施方針について ・ワンデーレスポンス試行工事の実施について ・主要地方道日立いわき線災害復旧事業について ・意見交換(質疑応答)
8月19日	水戸地区 (支部と合同)	茨城県 水戸土木事務所	・積算及び設計について ・事前調査及び支障物について ・地元対策について ・工事施工について ・工事設計変更について ・質疑応答意見交換
8月25日	県南地区	茨城県 つくばまちづくり センター	・TX沿線まちづくりの最近の状況及び今後の事業展望について ・企業の立地状況について ・今年度の工事概要及び工事発注状況について ・質疑応答意見交換
11月10日	県西地区	国土交通省 常総国道事務所	・設計・施工技術連絡会議 ・設計変更審査会について ・工事監督におけるワンデーレスポンス ・総合評価(地元企業への受注機会の拡大について) ・質疑応答意見交換
11月29日	県南地区 県西地区合同	国土交通省 常総国道事務所 北首都国道事務所	・北首都国道事務所事業紹介 ・国土交通省の取組み ・品質確保に関する意見交換
12月1日	大宮・ 大子地区	茨城県常陸大宮土木 事務所 大子工務所	・施工関係について ・電子入札関係について ・設計図書関係について ・意見交換(質疑応答)

未来協議会会員募集!

本会は建設業に従事する次代を担う経営者が魅力ある建設業の創造と発展に寄与する事を目的として設立され、会員の資質を高めるための研修・会員相互の親睦・経営の合理化及び労働環境改善に関する調査研究・建設業のイメージアップのためのPR活動・協会の事業に対する協力などの事業を行っております。

会員資格
年齢が平成23年3月末現在、満49歳以下の方

詳細は建設業協会本部事務局までご連絡ください
TEL 029-221-5126 担当 鈴木

会員体験談 (株)小倉工務店 小倉 健太郎 (平成 20 年 2 月入会)



未来協議会へ入会した当初は何をする会なのかも分かりませんでした。しかし、今では近隣の同業者の方々との交流が増え、技術的な相談の他、建設業が直面している問題やこれからの在り方を協議するなど、情報収集の場として非常に役に立っております。

また、会の行事を通じて普段普通に仕事をしているだけでは経験出来ない様な場もあり、そこでの経験が他の業界と交流する場でも活かされていると感じております。

仕事量の落ち込みなどで精神的にも皆苦労されていると思いますが、未来協議会では建設業に関する事だけではなく、色々な事を他の会員へ相談したり、励まして頂いたりしてストレスを発散できる良い環境にもなっております。

最後に、こんな厳しい状況下でも、誠意を持って地域ボランティア活動や緊急時におけるライフライン等の復興協力に応え、影で地域を支えている建設業界を未来協議会を通じてもっと大勢の方に理解してもらえる様に努力していきたいと思っております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

編集後記

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり…私の中でよく流れている平家物語の一節だ。物語には人それぞれの感想があると思うが、この物語を読んで私が感じるのは、人生の本質は変化と成長という事である。このことを踏まえれば、たとえ目の前の出来事が悲惨に思えても、その経験の中に必ず学びや喜びを見いだせると私は思う。

今年もあとわずか、来年私はどんなふうに変化していくのかと考えると、わくわくしてきて生きていることへの感謝でいっぱいになる。

どうか 2011 年が皆様にとっても愛と祝福に満ちた年となりますように…♥(N☆G)